換リ星移リ、イツシカ陵ノ所在ヲ失シガ、此塚院ノ社ヲ去ル事遠カラザレバ、是ナン疑フ可クモ有ラヌ院ノ塚ニシテ、何レモ帝ノ御物ナル可シト、土俗ノ云ヒタル由ヲ記セリ、

〔萬葉集十四相聞〕夜麻杼里乃、乎呂能波都乎爾、可賀美可家、刀奈布倍美許曾、奈爾與曾利雞米、

〔八雲御抄四斷簡言〕やまどりのおろのはつをにかゞみかけとなふべみこそなによそりけむ、○中略昔となりの國より山どりをたてまつりて、なくこゑたえにして、きく物うれへをわするといへり、みかどこれをえてかひ給に、さらに鳴事なし、あまたの女御に、この山鳥をなかせたらん人を、后にたてんとおほせられければ、やう〳〵になかせむとし給ける中に、一人の女御、ともをはなれてなかぬなめりと思えて、あきらかなる鏡をこのうちにたてたりければ、よろこべるけしきにて鳴事をえたり、尾をひろげてかゞみのおもてにあてゝなきけり、それによりて此女御后に爲給にけり、

〔淵鑑類函三百八十服飾〕鏡三　范泰鸞鳥詩叙云、罽賓王得鸞鳥甚愛之、欲其鳴而不得、夫人曰、聞鳥得類而後鳴、何不懸鏡以照之、王從其言、鸞鳥覩影而鳴、一奮而絶、

〔萬葉集二十〕喩族歌一首幷短歌

比左加多能、安麻能刀比良伎、多可知保乃、多氣爾阿毛理之、須賣呂伎能、可未能御代欲利、○中略須賣呂伎能、安麻能日繼等、都藝氏久流、伎美能御代御代、加久佐波奴、安加吉許己呂乎、須賣良弖爾、伎波米都、久之氏、都加倍久流、於夜能都可佐等、許等太氏氏、佐豆氣多麻敝流、宇美乃古能、伊也都藝都伎爾、美流比等乃、可多里都藝氏氏、伎久比等能、可我見爾世武乎、安多良之伎、吉用伎曾乃名曾、於煩呂加爾、己許呂於母比氏、牟奈許等母、於外乃名多都奈、大伴乃、宇治等名爾於敝流、麻須良乎能等母、

〔謠曲〕松山鏡

ワキ詞　言語道斷の事、我影の鏡にうつるを見て母の影にて有よし申し候ふはいかに、總じて此